

タイトル
生命・物質・社会—想定外事態の創発—

場所
京都大学旧演習林事務室ラウンジ
(基礎物理学研究所正面)

2015年5月26日(火曜日)
15:30-19:00

概要: 生命、物質、社会は、背後に潜むダイナミクスが単純に見えるにもかかわらず、しばしば多様で複雑な創発現象を提示する。興味深いことに、異なる組織構成をした異なるシステムであっても、フィードバックプロセスが似ていると、同じような振る舞いを示す。この種のトピックスについて多くの観点から議論することは、専門分野で研究する専門家にとっても興味をそそるばかりでなく、多くの教科を学んでいる学生や大学院生にとっても興味い。なぜなら、一つのシステムの理解が他の似たようなシステムの理解に繋がるからである。

この国際ワークショップは二つのプログラムから構成されている。最初のプログラム (Program I) は、クローズドで行い、いくつかの特殊なトピックスについて異なるテーマを研究している研究者と議論する。次のプログラム (Program II) は、オープンで行い、物質科学における量子描像と神経科学の最前線についての話題提供が二人の外国人研究者によって行われる。このワークショップによって、多くの参加者の研究が将来さらに発展することを心から願って止まない。

本国際研究ワークショップは、文部科学省科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究「統合科学の創造と統一生命理論の構築」(研究代表者: 村瀬雅俊・京都大学・基礎物理学研究所、課題番号 26560136) による研究費助成に基づいて実施された。

また、本国際研究ワークショップは、京都大学研究強化促進事業 学際・国際・人際融合事業「知の越境」融合チーム研究プログラム【学際型】 SPIRITS・Interdisciplinary Type (SPIRITS: Supporting Program for Interaction-based Initiative Team Studies) におけるプロジェクト「統合創造学の創成—市民とともに京都からの発信—」(総括代表者: 村瀬雅俊・京都大学・基礎物理学研究所) による研究費助成に基づいた研究組織構成の結果として実施された。

Program I

15:30-15:50

“間違いが人の知恵の進化に関するいくつかの局面について、あなた方に語りかけることがある”

大野照文

京都大学総合博物館 教授

15:50-16:10

“我が国においてなぜ、物理学論文の数が減少しているのか?”

飯嶋秀樹

同志社大学大学院 総合政策科学研究科 大学院学生

16:10-16:30

“将来の企業を創造する新たなイノベーションモデル”

山口栄一

京都大学総合生存学館 教授

Program II

16:35-16:15

“物質の量子的特性は制御可能だろうか?”

Cynthia Trevisan, Ph. D.

Associate Professor, Physics and Department Chair.,

Dept. of Sciences and Mathematics, California Maritime Academy

16:15-18:00

“神経生物学において何が新しいか?”

Aage R. Moller, Ph.D. (D. Med. Sci.)

Distinguished Lecturer in Behavioral and Brain Sciences

Professor of Cognition and Neuroscience

Founders Professor, School of Behavioral and Brain Sciences

The University of Texas at Dallas